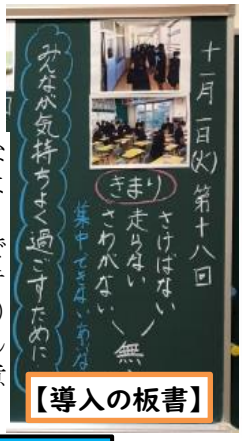
学　年	教科等	主題名及び教材名	日　　時
第５学年	道徳科	おたがいの権利『住みよいマンション』	令和４年１１月１日(火)６校時

研究内容１ 手立て	**【道徳科と特別活動を関連させた授業の構想】** 本授業は、学級活動で行った「２学期の目標を立てよう」との関連を意識したものである。２学期の目標について話し合った結果、「もっときまりを守るクラスにしたい」「いろいろな仲間ともっと仲よくなりたい」「当番や委員会活動等、責任をもって行動できるようになりたい」という大きく３つの目標が設定された。本授業は、「もっときまりを守るクラスにしたい」という目標と関連する内容となっている。 本授業と学級活動を関連させる手立てとして、学級活動で決めた３つの目標を教室に掲示し、普段から子どもが意識できるようにする。また、授業終末のふりかえりの際には、２学期の目標とつなげるような声かけをすることで、道徳科の学習と学級活動を子どもがつなげることができるようにする。
研究内容２ 手立て	**【多面的・多角的に道徳的価値について考えるための手立て】** 本授業で取り上げる騒音問題は、「静かに生活する」という権利と「ピアノを弾く」という権利の、２つの権利が対立していることが要因となっている。お互いの権利が対立していることを視覚的に分かるように板書することで、どちらの権利も大事であることに気付くことができるようにする。そうすることで、両方の立場に立ちながら解決方法を考えることができるようにする。 また、管理人の岡さんが気付いたことについて考える際には、付箋に自分の考えを書き、それを基にグループで話し合うという活動を行わせる。岡さんの気付いたこととは、お互いが気持ちよく過ごすために大切なことであり、様々な視点が含まれている。付箋のよさは、自分の考えを視点毎に分けて書くことができ、仲間の考えを視点毎に分類できるところにあると考える。自分が考えたことと、グループの仲間が考えたことを画用紙に貼りながら考えをまとめるなかで、主題について多面的・多角的に考えることができるようにする。

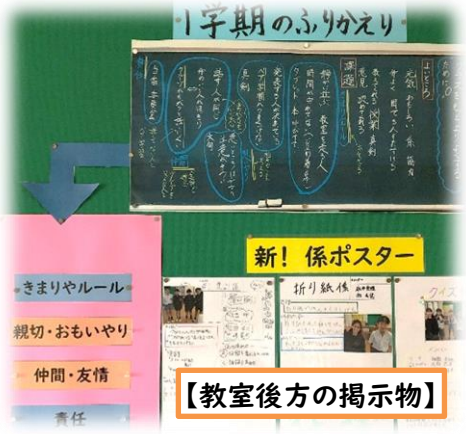
子どもの姿からの報告

研究内容Ⅰ　道徳科と特別活動を関連させた授業の構想

導入では、子どもたちに廊下や教室の写真を提示し、どのようなきまりがあるのかを確認した。その後、「きまりがあるから気持ちよく過ごせますね。」と発問をしたところ、子どもからは、「騒がしくて読書に集中できない。」等、音に関する問題点が出された。ここで教室掲示の場所に教師が移動し、２学期の目標に注目させ、学習テーマを設定した。このような手立てを取ることで、本授業（道徳科）の学習をとおして、「きまりやルールを守るための心について学んでいこう。」「２学期の目標に迫るために学習しよう。」という目的意識を子どもにもってほしいと考えた。



【導入の板書】



【教室後方の掲示物】

研究内容2　多面的・多角的に道徳的価値について考えるための手立て

本授業は、「みんなが気持ちよく過ごすためには…」という学習テーマを設定した。このテーマについて、教材やこれまでの経験を基に子どもたちが話し合っていくことをとおして、自分なりの考えをもつことができるように授業を構成した。

学習テーマについて子どもが考える際、今回の内容項目である「規則の尊重」の視点だけではなく、「相互理解」「寛容」「親切、思いやり」等の様々な視点から考えることが大切であると考えた。そして、関連する様々な視点から多面的・多角的に考えるためには、仲間とかかわり合いながら話し合い、自分の考えを見つめ直すことができるような手立てが必要だと考えた。そこで、右の写真にもあるように、子どもたちに付箋を配り、グループで話し合いながら画用紙にまとめていく活動を行わせた。

A 児のふりかえりを読むと、1 人で考えていた時には、「話合いを行うことが大事」と考えていたが、グループでの話合いをとおして、「お互いに行動することが大事である。」と考えが見直されている。B 児のふりかえりからは、相手を尊重するという考えから、「自分たちがどうすればよりよく過ごせるかを考える」という、具体的に考える内容についても目を向け始めていることが分かる。

多面的・多角的に考えるための手立ては様々である。今後も、教材や発問に合わせ、実践・検証を行っていきたい。

【付箋を使ったグループ討議の様子】

【ふりかえり　～子どものノート記述より～】

私は、初め話し合ったら必ず解決するのかなと思っていましたが、グループの意見を聞いたら、話し合ってそれを協力し、実際にそれを行動するのが本当の解決方法だと思いました。　（A 児）

私は、みんなが気持ちよく過ごすためには、相手の意見も大切にするといいと思いました。〇〇さんの「自分たちがどうすればよりよく過ごせるかを考える」という意見がいいと思いました。（B 児）

考察

〇　道徳科と特別活動を関連させることで、道徳科での学習により目的意識をもたせることができる。道徳科と特別活動を関連させるためには、関連を意識した学習プラン（年間指導計画）の作成や見直しが必要である。その際、全ての学習を関連させることは難しいため、学校の道徳教育の全体計画にある重点内容を基に関連を図るなど、関連させる内容については今後も研究を進めていきたい。

〇　多面的・多角的に考えさせる際に、付箋を使ったグループでの話合いは効果的である。しかし、テーマによっては、多様な考えが出にくくなることもあるため、応答予想を考えながら、より効果的な場面で取り入れていく必要がある。また、タブレット等の ICT 機器を活用することも可能である。目的に応じて活用しながらその効果について検証していきたい。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり（★は評価にかかわるもの）
1　教室や廊下のきまりや過ごし方についてふりかえり、主題についての問題意識をもつ。 ◇　教室や廊下にはどんなきまりがありますか？ ・　走ったり、大声で話したりしてはだめ。 ・　暴れてはいけない。　等 ◇　きまりがあれば大丈夫かな？ ・　守れていない人もいます。 ・　きまりばかりでは嫌だな。　等 ○　学習テーマ みんなが気持ちよく過ごすためには…	○　教室や廊下の写真を提示し、どのようなきまりがあるかを問うことで、身の回りにあるきまりについて想起することができるようにする。 ○　きまりの意味を問うた後に、「きまりがあるから安心して生活できますね。」と問い返し、現状についてふりかえらせることで、主題に対する問題意識をもつことができるようにする。
2　読み物教材「住みよいマンション」を視聴し話し合う。 ○　両者の思いや権利について ◇　静かにしてほしいと訴えた人の気持ちは？ ・　ピアノの音がうるさくて困る。 ・　私達のことも考えてほしい。　等 ◇　ピアノを弾いている人の気持ちは？ ・　きまりは守っているから許してほしい。 ・　どうすればピアノを弾けるのかな。　等 ○　問題を解決する方法について ◇　どうすればこの問題は解決しますか？ ・　音を小さくする工夫をすればよい。 ・　新しくルールをつくればいいのかな。 ・　しっかりと話し合って、お互いの気持ちを伝えることが大事ではないか。　等 ○　管理人の岡さんが気付いたことについて ◇　「ルールだけ作ってもダメなのですね。」と気付いた岡さんは何が大事だと気付いたのかな？ ・　お互いの気持ちを考え行動すること。 ・　相手のためにできることはする。 ・　何でも言い合える関係づくりが大事。　等	○　どちらの意見に共感できるかを問い、話し合わせることで、どちらも権利を有していることを理解するとともに、お互いの権利を主張し続けても問題が解決しないことに気付くことができるようにする。 ○　子どもの発言を基に、両者の気持ちや思いを比べられるように板書をすることで、お互いの権利の主張が対立していることを、視覚的に理解できるようにする。 ○　教材文を途中まで読み、問題の解決方法を考えさせることで、自分事としてこの問題を捉えさせるとともに、岡さんが最後に気付いたことと、自分達の考えを比較することができるようにする。 ○　全文を読み、主題に対する考えを付箋に書かせグループで話し合わせることで、お互いに気持ちよく過ごすために必要なことについて、多面的・多角的に考えることができるようにする。
3　身近な問題場面を基に、自分の経験をふりかえり、主題についての自分の考えをもつ。 ○　身近な問題場面について ・　周りの人のことを考えずに騒いでしまった。 ・　急いで廊下を走ってしまった。　等 ○　主題に対する自分の考えについて ・　きまりを守ることも大事だが、相手の権利も考えて行動することが大事。 ・　問題が起きたときは、相手のことを思って話合うことが大事。 ・　自分にできることを考えたい。　等	○　身近な問題場面をイラストで提示し、問題点を考えさせることで、学習と自分の経験とをつなげながらふりかえり、今後の自分のありようについて考えることができるようにする。 ★　板書を基に授業をふりかえり、主題について、これまでの自分の生活をふりかえったり、自分なりの考えを、ノートに書いたりすることができるようにする。

○　本時の評価規準

お互いの権利を尊重し合い、相手のためにできることを行おうとする思いを高めている。
【一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか】